シリーズ 探訪 わが町文化財 その113

延蔵寺の笠塔婆（青田地区）

延蔵寺は、青田地区にある浄土宗の寺院です。地区の伝承によると、寺の歴史は鎌倉時代の終わり頃（約700年前）にさかのぼるとされます。播磨国（現在の兵庫県南西部）の有力武士で、足利尊氏の重臣として重用され、室町幕府の成立にも大きく貢献した赤松則村の孫にあたる赤松宗範という武士が移り住み、城を築いて堂を建てたのが寺の開基と伝わっています。その後、宗範の子孫で、赤松延蔵という人物が仏に深く帰依したことから、延蔵の寺として延蔵寺と呼ばれるようになったそうです。今も寺の山号は「赤松山」となっています。

この地域における赤松氏の動向は不明ですが、境内には赤松氏一族の供養塔と伝わる笠塔婆があります。高さが177cmと立派なもので、正面には「南無阿弥陀仏」という名号と、その下に蓮華の台座が刻まれています。年号や願主などは確認できませんが、室町時代のものと考えられます。

その後、赤松氏の衰退によって寺は廃れていきましたが、江戸時代の享保年間（約300年前）に哲亮という僧が寺を再興して中興の祖となりました。現在の地蔵堂は昭和45年（1970年）に改修されていますが、建物の建築様式から享保年間の再興時に建てられたものと考えられます。

哲亮は、那賀郡勢田村（旧打田町）から地蔵菩薩を移して安置したと伝えられています。この時に安置された地蔵菩薩は、延命地蔵と子安地蔵として今も厚く信仰されています。

地蔵堂

笠塔婆

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737-52-2111（代）
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページURL https://www.town.aridagawa.lg.jp